



新年のごあいさつ



埼玉大学生協同組合
専務理事 河本 健太郎

新年明けましておめでとうございます。

2025年度は総代会で確認した中期計画(2023-2025)の最終年となります。経営数値的にはまだまだ厳しい状況が続いていますが、コロナ禍で停滞していた様々な取り組みや活動を再開しています。とりわけ、大きく人数が増えた学生委員会は対面での企画を再開しています。

このような状況の中、埼玉大生協では大学生同士の交流やコミュニティ作りなどに貢献できるように様々な取り組みを行っていきます。現在も4月からの新入生向けの企画を教職員・学生委員会一同となって準備しています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のごあいさつ



大東文化学園生活協同組合
専務理事 石橋 健司

新年明けましておめでとうございます。

2024年度は、食堂で「ミール定期券」を開始しました。朝も昼も食べない学生が少なくない中、生協としてしっかり昼ご飯を食べてもらうために、授業のある月～金、1日上限650円まで、毎日食べた場合、20%引きの金額で購入できる「食の定期券」を提案しました。

初年度は258人の方に登録いただき、毎日しっかりバランスの良い食事をしていただいています。2025年度もこの取組をさらに広げ、多くの方にしっかりと昼食をとって頂くようすすめて参ります。

本年もよろしくお願いいたします。

新しい年を迎えるにあたって ~ずっとくらしの中に~

あけましておめでとうございます。

昨年も埼玉県行政をはじめ、県議会、県内諸団体の皆様より、当会および埼玉県内の生協に対し多大なご支援をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

1年前の能登半島地震災害を受けて、県内の生協は組合員募金や職員派遣など息の長い支援活動を進めてきましたが、9月の豪雨災害が追い打ちをかけ、避難生活が長期化しています。被災地のくらしと地域が再生できるよう全国の生協と力を合わせ、引き続き支援を続けてまいります。

被爆・戦後80年を目前に、日本被団協がノーベル平和賞を受賞するというたいへんうれしいニュースが飛び込んできました。県内の生協は、埼玉の被爆者組織である「しらすぎ会」の被爆者から核兵器の恐ろしさや非人道性を学び、核兵器も戦争もない平和な世界への願いを共有してきました。ロシアによるウクライナ侵略は今年で4年目を迎えることになり、新たな兵器の投入や核兵器の脅威も高まっています。パレスチナ・ガザ地区の紛争でも人道に反する行為が続いています。早急な戦争・紛争の終結を求めるとともに、被爆国の県民として、被爆体験

を継承し核兵器廃絶への願いを広げていきます。

2025年は国連が定めた2回目となる国際協同組合年(IYC2025)です。協同組合の持続可能な開発目標(SDGs)に向けた実践が評価されたことから設定されました。

地球規模での環境保全、激甚化する災害における防災・減災、持続可能な食料生産と消費、インフレ基調の中での生活支援、少子化・高齢化のもとの地域コミュニティづくり、消費者被害を防ぐための啓発や見守りなど多くの活動がありますが、埼玉県生協連は協同組合の一員として、また助け合いの組織として、「安心してくらし続けられる地域(埼玉)社会」と「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現に向け活動を進めてまいります。各界の皆様よりご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、この1年が皆様にとって実り多き年になりますようお願い申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



埼玉県生活協同組合連合会
会長理事 吉川 尚彦

新年のごあいさつ



淑徳大学みずほ台生活協同組合
専務理事 松原 健司

新年明けましておめでとうございます。

淑徳大学みずほ台生活協同組合は新年度で28年目を迎えます。2023年度より淑徳大学埼玉キャンパスでは学部の再編が行われ、「地域創生学部」が新設されました。昨年はキャンパス再編二年目で新しい学部の学生さんにも多くご利用いただきました。またコロナ禍で停滞していた学生委員会の活動が活発化してきました。学生数の減少もあり厳しい事業環境がありますが、そんな中でも生協が出来ることを考え、大学・組合員から必要とされる生協を目指していきたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のごあいさつ



コープデリ生活協同組合連合会
代表理事 理事長 熊崎 伸

あけましておめでとうございます。

エネルギーや原料価格の高騰、人手不足などにより商品価格が上昇し続け、家計を圧迫しています。昨年、全国の生協と実施したキャンペーン「くらし応援」では多くのご利用をいただき、組合員のくらしの厳しさを実感しました。一方で、米不足による需給ひっ迫で大変なご迷惑をおかけしました。引き続き、安心してご利用いただける生協づくりを進めてまいります。

能登半島地震の被災地では復興途上の中、9月に記録的な豪雨に見舞われました。コープデリグループは募金活動を継続するとともに、現在3名の職員がコープいしかわの配達支援として出向しています。

昨年、「コープデリグループビジョン2035」を策定しました。そして今年には国際協同組合年。組合員に寄り添い、多様なパートナーとの「ともに」の力で、事業と活動に進進してまいります。

新年のごあいさつ



生活協同組合コープみらい
代表理事 理事長 熊崎 伸

あけましておめでとうございます。

昨年元日に発生した能登半島地震から1年が経ちました。9月には記録的な豪雨に見舞われ、復興途上の被災地に再び被害をもたらしました。コープみらいは、地震と豪雨災害に対する募金を呼びかけており、コープいしかわを支えるために3人の職員が出向しています。今後も被災者に寄り添った支援を続けてまいります。

日本被団協がノーベル平和賞を受賞されたことに心よりお祝いを申し上げます。平和とは、ふだんのくらしを守ること。平和を次世代に継承するため、平和の尊さを伝える取り組みをこれからも広げてまいります。

昨年、「コープデリグループビジョン2035」を新たに掲げました。今年には国際協同組合年。組合員と職員、お取引先、行政や地域の皆さま、そして各協同組合と連携し、「ともに」の力で、誰もが笑顔でいられる明日を創ってまいります。

新年のごあいさつ



生活協同組合パルシステム埼玉
理事長 樋口 民子

あけましておめでとうございます。昨年も地球温暖化による異常気象が続き、夏は連日の猛暑となりました。8月には、主食であるお米が買えないという令和の米騒動が起きました。農業には温暖化だけでなく、安定した収入が得られないために担い手が不足しているなど、様々な課題があります。安全な食の基礎となる農業が持続できるように、生産者と組合員のつながりをさらに深めていきます。

2025年は国連が定めた「国際協同組合年」です。戦争や紛争が起こり、貧困や格差、社会的な分断が進む世界で、誰もが生きられるように市民が協同していく価値、助けあっていく仕組みが評価されています。私たちパルシステム埼玉も生活協同組合として、他の協同組合の仲間とのつながりを深め、組合員、役職員、地域の方々と力を合わせて、くらし、地域や社会を良くする事業と活動を進めていく1年にしたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のごあいさつ



生活クラブ生活協同組合
理事長 石井 清美

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、周年事業をきっかけにコロナ禍で縮小していた活動が活発に行われました。組合員、生産者、地域の方たちと顔をあわせることでお互いを理解し、つながることの重要性を感じました。また、運動グループ（生活クラブを含む5団体）で共同して県政へ意見を提案する等、新たな場面を増やすことができました。

今年は次への一步を踏み出す年にしたいと思っています。社会状況は引き続き本年も厳しい年になりそうですが、課題解決にワーカーズ、地域コミュニティなど社会的なつながりは更に必要になりますし、県内各生協や行政機関ともつながりを高めることが、住みやすいまちにつながると考えます。小さなことから何ができるか考えてすすめていきます。

本年もよろしくお祈りいたします。

新年のごあいさつ



埼玉県勤労者生活協同組合
専務理事 柳川 聡一

新年あけましておめでとうございます。

「国際協同組合年」を迎える今年、皆様と共に協同組合の意義を改めて見つめ直し、新たな未来への一步を踏み出す機会にしたいと思っております。

協同組合は相互扶助の精神のもと、地域社会や持続可能な経済に貢献してきました。私たち埼玉県勤労者生活協同組合も、消費者の声を反映しながら、暮らしを守る活動を続けています。

今年は、特に「環境への配慮」「地域社会との連携」「デジタル時代における人間性の尊重」に重点を置き、より多くの方々とのつながりを強めます。

連帯と協同の力で、未来への希望を共有し、新たな価値を創造する一年にしていきましょう。2025年が皆様にとって実り多い年となりますようお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

平和にこだわる1年に



医療生協さいたま生活協同組合
理事長 雪田 慎二

新年あけましておめでとうございます。日頃より医療生協の活動をご支援いただき誠にありがとうございます。

今年も質の高い医療と介護、健康づくりに取り組みながら、多くの方々を合わせて安心して暮らせるまちづくりに貢献したいと考えております。また昨年は、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。被団協の皆様には敬意を表するとともに、核兵器廃絶、平和の運動に取り組んできた団体の一つとして私たちも大変励まされる思いです。世界ではウクライナやパレスチナなどで今なお戦闘が続いていますが、決して核兵器を使用させず、廃絶し、世界全体が戦争のない平和な社会となるよう、今年も皆様方と一緒に取り組んでまいります。

この新しい年が皆様方にとって健康で笑顔ある一年となることを心より祈念申し上げまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



埼玉県労働者共済生活協同組合
理事長 金井 浩

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、日頃よりこくみん共済coopの運動と事業に格別なるご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は、2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震をはじめ線状降水帯による豪雨・落雷・降雹、台風10号など全国各地で多くの自然災害に見舞われました。

このような状況の中、住宅保障における安心を提供するこくみん共済coopは一丸となって、自然災害により被害に遭われた組合員に寄り添い、生活再建に向けた対応にあたってまいりました。

今後こくみん共済coopは、「みんなてたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」の理念の実現に向け、共済事業を通じ組合員の皆さまが安心して生活を送れるよう、安心と信頼の「共済生活協同組合」の役割を果たしてまいります。

本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

住まいづくりを通して 持続可能な社会を目指します



さいたま住宅生活協同組合
理事長 後藤 晴雄

あけましておめでとうございます。昨年は、元旦から「能登半島地震」が発生、災害も多く、暑い年となり気候危機が着実に進んでいることを実感しました。

私たちは、国、県、市町村などの補助金制度を活用し住まいの断熱化、耐震リフォームなどを推進しています。これからの住まいづくりにとって必須の課題です。総代会で掲げたスローガン「組合員の信頼に応え組合員を主人公に」をつらぬき、組合員のニーズをとらえ住まいづくりに取り組み、「SDGs」に貢献してまいります。

国際協同組合年の年にふさわしい取り組みをはじめ、憲法を守る運動、平和を求める運動などを事業活動と合わせて取り組んでいきます。

今年が皆様方にとって健康で、笑顔あふれる年になることをお祈りし、新年のあいさつといたします。

高齢者の仕事おこしを使命として！



生活協同組合・さいたま高齢協
理事長 坂林 哲雄

あけましておめでとうございます。

2025年は国連が定めた2度目の「国際協同組合年」です。2012年に続き異例の再登場です。期待は間違いなく強欲な資本主義への歯止めだろうと思います。戦争が常態化し、人の命と自然が搾取され、地球環境は危機的な事態を迎えています。貧困と差別という問題もより一層色濃く顕在化しています。人間や自然を儲けの道具としてきたのが強欲資本主義です。世界を支配する金融資本や巨大流通資本が、中小の生産者よりも圧倒的に力を持ち、モノの値段を決めてゆく。ここに対抗する力は地域に密着し人々の暮らしに寄り添う協同組合しかないというのが、国連の評価だと思います。私たち協同組合人も日々の経営に汲々としがちですが、協同組合に何が求められているのか、大きな社会ビジョンにどう取り組むのかをしっかりと議論できる1年になればと願っています。